

管理栄養士養成施設における早期体験学習 (Early Exposure) としての乳幼児健診見学の実践

沖嶋 直子・水野 尚子・中原 美幸・
百瀬 尚代・藤岡 由美子

Practice of Early Exposure for Freshpersons Who Study
Nutrition at Matsumoto University

OKISHIMA Naoko, MIZUNO Naoko, NAKAHARA Miyuki,
MOMOSE Hisayo and FUJIOKA Yumiko

要 旨

本学平成20年度入学生を対象に1年次に山形村における乳幼児健診に派遣した。現場では健診における栄養指導など管理栄養士業務を見学した後、事後カンファレンスに参加した。

学生がほぼ全員参加した平成20年度入学生と、希望した7名のみが参加した平成19年度入学生とに、応用栄養学に関する同じ質問に解答させた内容を検討し、参加しなかった学生に対し参加した学生の当該内容についての理解度が高い傾向が示された。

キーワード

早期体験学習 乳幼児健診 栄養アセスメント

目 次

1. 緒言
2. 対象と方法
3. 結果および考察
4. 結語

謝辞

参考文献

1. 緒言

早期体験学習はアーリーエクスポージャー(Early Exposure)とも呼ばれ、1～2年次の専門科目をまだ本格的に学んでいない学生を対象とし、将来就職することが予想される職場へ派遣し、専門的な知識や技術を持たない状態で見学や実習を行う教育手法である。これまでに他の医療系学部である医学部、歯学部や薬学部においては実施され報告例もある¹⁾²⁾³⁾。管理栄養士養成施設においても入学後早期からの動機付けとしての必要性について言及されているが⁴⁾、本学の他には実施報告はない⁵⁾⁶⁾。

我々は、本学やその他の管理栄養士養成課程への進学を希望する高校生やその保護者を対象に、管理栄養士の業務についてオープンキャンパスや模擬講義にて紹介するなど周知を試みている。しかしながら、実際には受験生も保護者も管理栄養士の業務についてほとんど知らないまま、「お料理教室」「給食のおばちゃん」といったキーワードで説明される、食物や調理を学ぶ意識で入学してくる(入学させる)ことも少なくない。しかし、実際入学後に学ぶのは、調理や食物だけでなく、彼らにとっては入学後学ぶことを予想すらしなかった生命科学や医学に関わる専門科目であり、これらの科目の多くは化学や生物学の要素を必要とする。その結果、調理や食物に興味があるが化学や生物学を苦手とする学生においては、入学当初から学習に意欲的に取り組めない場合も少なくない。このような学生に対し、入学後早期から管理栄養士養成課程における学習内容の意義について理解させ、自覚を促し、学習意欲を向上させることが必要となってきた。アーリーエクスポージャーでは、職場での管理栄養士が大学で学ぶ知識をどのように活用しているのかについて、実地で見学し理解する事が出来ることから、学習意欲の向上の一助になると考えた。

今回は乳幼児保健分野における管理栄養士の業務の一つについて理解することを目的として、1年生全員を対象として乳幼児健診の見学を行った。見学実施後の教育上の効果について、実施後アンケートおよび小テストの解答内容から検討を行ったので報告する。

2. 対象と方法

2-1. 対象

松本大学人間健康学部健康栄養学科1年生(平成20年度入学生。以後2期生とする)

2-2. 見学先

長野県東筑摩郡山形村保健福祉センター(いちいの里)における乳幼児健診を見学した。

山形村は人口約8500人の小規模な自治体であるため、1回の健診に訪れる母子の数が比較的少なく、加えて現場のスタッフの尽力もあり全ての健診者に対して健診結果を基にした個別指導がきめ細かに行われている。さらに、健診に携わった全てのスタッフが健診終了後カンファレンスに参加し受診した全ての母子の情報を共有している。このことから、管理栄養士と他職種が連携し、栄養アセスメントおよびその結果を基にした栄養ケア・マネジメントを行っている現場を一貫して見学できる利点があると判断し、見学時期が5月から12月に分散するが当該センターでの見学を実施した。

2-3. 見学内容

見学実施に当たっては、最初の見学日から約2週間前に概要とスケジュールについて説明を行った。学生は、保健福祉センターのスタッフや検診を受ける母子の負担とならないよう、8名前後の少人数のグループに分け、平成20年5月下旬から12月上旬に実施された乳児健診あるいは幼児健診のどちらかへ派遣した。事前学習として見学前に①当日の健診スケジュール②健診、指導の項目別に見学内容を書き込ませる用紙③アンケート用紙を配布、当日の見学の仕方や注意事項について説明し現場での見学に臨んだ。現場では、母子1組に学生1名がつき、身体計測、集団指導、小児科医の診察、個別指導までの全ての健診内容について一緒に回り見学させた。個別指導では、あらかじめ受診者が記入してきた授乳や離乳食の状況や、当日の身体計測結果とそれから求めたカウプ指数、医師の診察のカルテを元に管理栄養士が食事指導を行う場면을重点的に見学させ、健診終了後に全スタッフが参加するカンファレンスに同席することで、管理栄養士と他職種との連携、情報共有、健診後のフォローについても学習させた。事後学習として当日配布した見学内容記入用紙を1週間以内に清書させ、アンケートとともに提出させた。その後2年前期に開講する栄養管理論(含む栄養アセスメント論)において、栄養アセスメント分野の講義を受けることで学習を完結させた。

2-4. 成果

2-4-1 見学後アンケート

見学時にアンケートを配布し、見学終了後1週間以内に記入、提出させた。

アンケート内容は質問1「参加する前の気持ち」質問2「この見学は参考になったか」質問3「見学時間は適当だったか」質問4「施設は良かったか」の4点について、3段階評価で選択させた。さらにそれぞれの質問に自由記入欄を設け、意見を求めた。

2-4-2 小テスト

見学効果を検討するための小テストを、「栄養管理論(含アセスメント論)」の講義内で実施した。栄養アセスメントについての講義が終了した後、成績判定には影響しない事を説明した上で「乳幼児健診における、体格測定(身長・体重・頭囲・胸囲など)の意義について、主に栄養アセスメントとの関連について述べよ。」の問いに自由記述式で答えさせた。比較対象として、1年後期終了後の春期休暇中に希望者のみ7名が参加した平成19年度入学生(以後1期生とする)にも「栄養管理論(含アセスメント論)」講義中に全員同一問題に解答させた。解答率と内容について比較するため、解答の有無、記述内容から0、1、2点の3階層に区分した。具体的には、体格測定をすることで「栄養状態を見ている」、「肥満や薄い瘦の発見」、「体格測定を元に栄養指導を行っている」などといった体格測定と栄養状態との関連性について直接的に記述していたものを2点とし、「発育を見ている」、「身体・知的障がいの発見」のみの記述で、栄養状態と体格測定を具体的に関連させていないとも読み取れる解答は1点とし、無記入は0点とした。この内容で小テストを行った理由は、当該施設による乳幼児健診では、身体計測や健診の結果を元にした管理栄養士による個別指導が受診者全員に必ず行われており、それを見学し意義を理解できていれば解答できると判断したためである。

なお、本研究は松本大学研究倫理委員会の承認を受け、実施した。

3. 結果および考察

3-1. アンケート結果

アンケート回収率は91%であった。この集計結果を図1、2および表1、2に示す。

設問1「参加する前の気持ちは」において、「楽しみにしていた」と回答した学生は35名(50%)、「どちらともいえない」は23名(33%)、「興味がなかった」は10名(17%)で見学前には半分の学生がこの見学に意欲的であった反面、半分の学生はそうでないことが判明した(図1)。

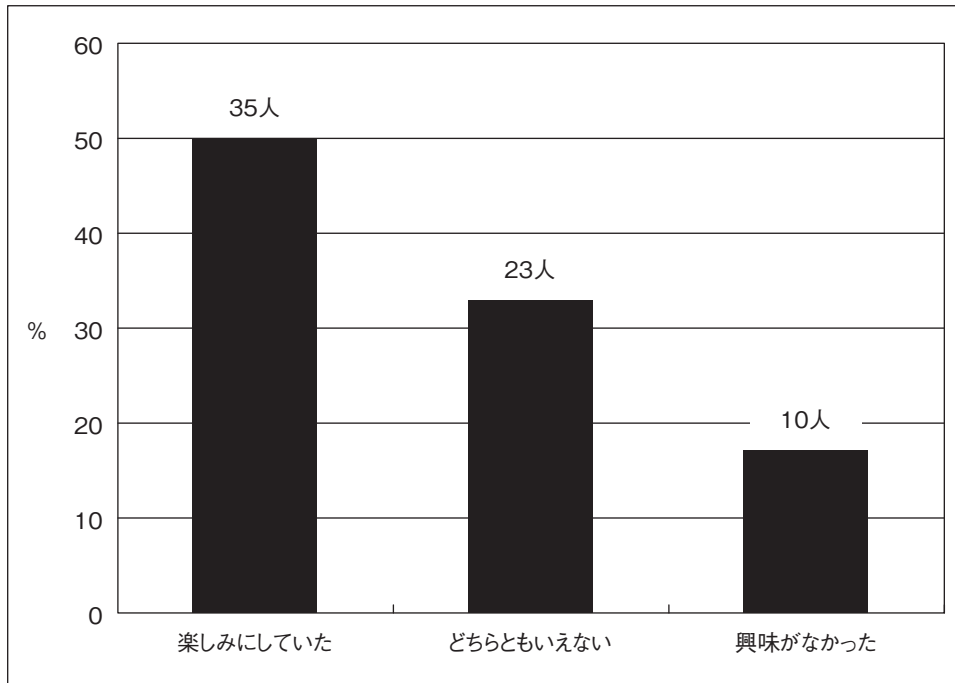


図1 アンケート設問1「事前実習に行く前の気持ちはいかがでしたか。」

自由記入欄から、「楽しみにしていた」と回答した学生35名のうち17名は「小さな子供が好きだから」、15名は「普段見学できない管理栄養士の仕事を見学できるから」と記述し、見学前から子供が好きであったか、あるいは管理栄養士の業務に興味を持っていたことが読み取れた。その反面、「興味がなかった」あるいは「どちらともいえない」と回答した学生33名中17名は自由記入欄において「小さい子供が苦手」、「小さい子と接したことがなく不安」、6名は「何をやるのかわからないので不安」と記述し、見学前に子供に対して苦手意識を持っていたか、現場で何を見学するのかわからず不安に思っていたことが読み取れた(表1)。

表1 アンケート設問1「事前実習に行く前の気持ちはいかがでしたか。」自由記入欄の記述。
各記述には、類似のものを含んでいる。

記述	人数
「楽しみにしていた」と回答した学生	
小さい子が好きだから	17
普段見学できないことを見学できるから	15
「興味がなかった」・「どちらでもない」と回答した学生	
小さい子が苦手だから	11
小さい子と接するのが初めてなので不安	6
何をするのかわからず不安	6
子供に好かれることが少ないから	1
管理栄養士の仕事と関係があると思わなかった	1

設問2「この見学は参考になったか」として「参考になった」が67名(96%)、「どちらでもない」が2名(3%)、「参考にならなかった」が1名(1%)となり、見学後には肯定的な意見が大半となった(図2)。

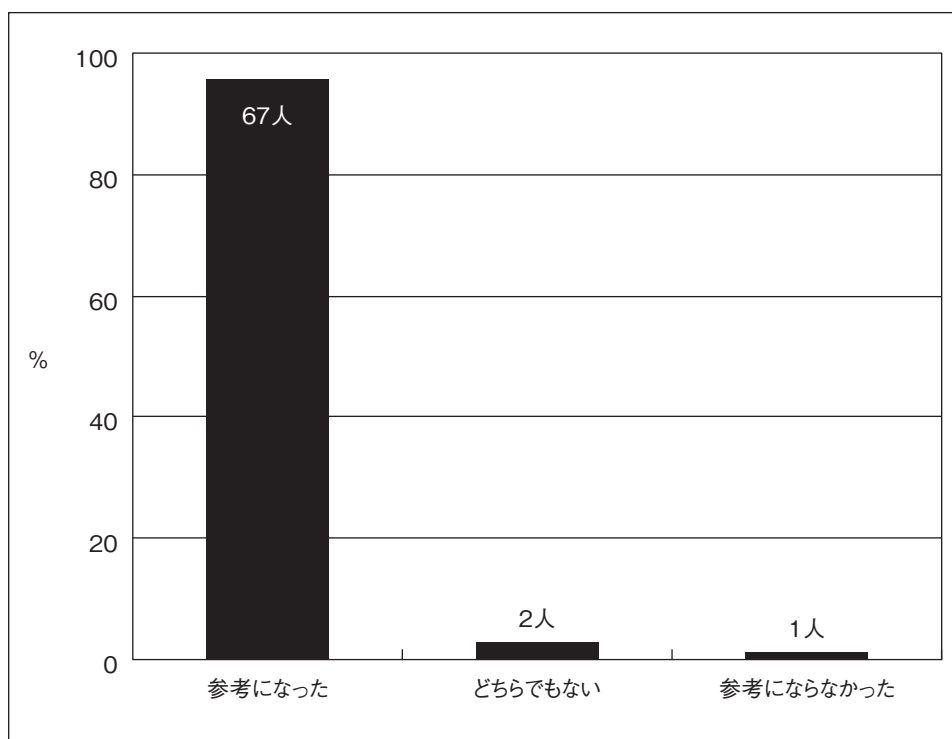


図2 アンケート設問2「管理栄養士が働く現場を見て、今後の学習の参考になりましたか。」

「参考になった」と記入した学生は、自由記入欄において11名の学生が「このような(保健福

社の職場でも管理栄養士が働いていることがわかった。」と記述していた(表2)。他の養成施設でも同様の傾向は観察されているが⁷⁾、本学の学生は、資格取得後の進路として主に病院と学校給食をイメージして管理栄養士養成課程へ進学してくる(図3)。

表2 アンケート設問2「管理栄養士が働く現場を見て、今後の学習の参考になりましたか。」自由記入欄。各記述には、類似のものを含んでいる。

記述	人数
参考になったと答えた学生	
現場の管理栄養士の働きを見学できた。	17
栄養学の知識だけでなく、母親それぞれに合わせて指導することが必要だと知った。	16
今学んでいる知識をどのように使うのか、何が必要かわかった。	12
このような施設にも管理栄養士が働いていることを知った。	11
参考にならなかったと答えた学生	
(卒業後)自分にはこのような事はできないと思う。	1

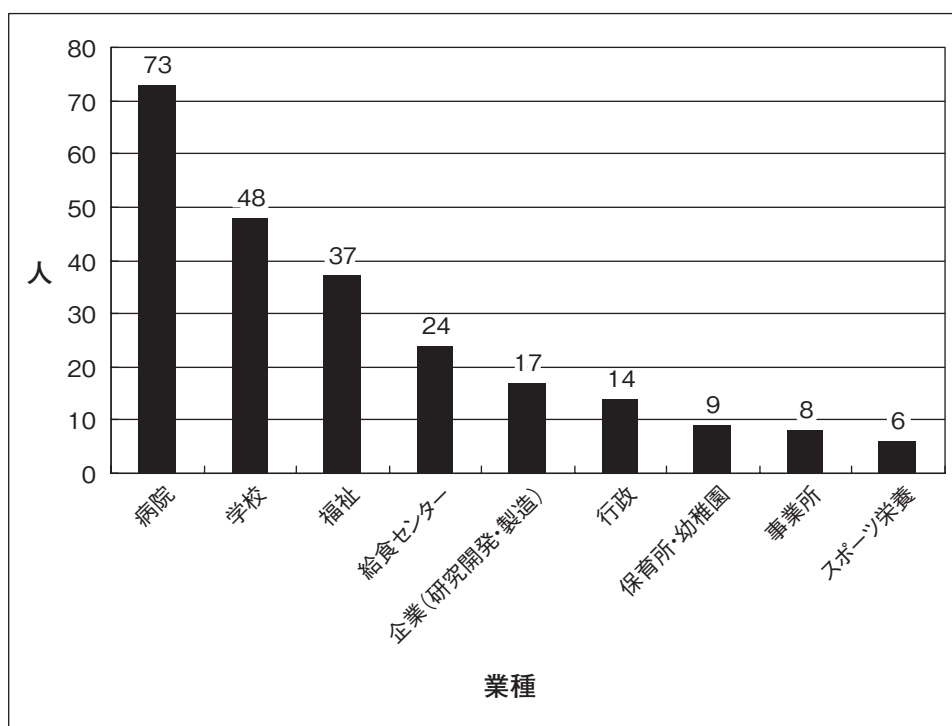


図3 2期生が入学時にイメージしていた管理栄養士の勤務先。
自由記入で78名から複数回答を得た。

これはネット上などでの職業紹介において管理栄養士の就職先として病院・学校給食の2職種が紹介されがちであることから理解できる⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾。しかしアンケート質問2の自由記入欄の記述「このような保健福祉施設にも管理栄養士が働いていることを知った。」などか

ら、今回の見学を通じて、これまで多くの養成施設の学生が入学直後には知らなかった行政における管理栄養士の業務について、公衆栄養学分野の臨地実習を実施する前に知ることができ、将来の進路選択の幅が広がったと考えられる。さらに自由記入欄において「栄養学の勉強だけでなく、母親にわかりやすく伝える技術も必要だと思った。」(16名)や「今学んでいる知識をどのように使うのか、何が必要かわかった。」(12名)など、現在学習している知識を現場でどのように使っていくのかに加え、管理栄養士の業務には専門知識だけでなく、それを対象者にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力が必要であることについての理解が示唆された。これらの記述から、今回の見学を通して「管理栄養士とは、どのような分野でどのような仕事をしているのか」という職業像が一例ではあるが具体的になり、自分が将来管理栄養士として働くには、今後大学内外で何を学ぶことが必要かについて考えるきっかけになったことが示唆された。

しかしながら、現在の自分の状況と現場の管理栄養士の職務上での振る舞いを比較して、「自分にこのような指導ができるようになるだろうか。」という不安を表す回答(設問2でどちらでもないと答えた2名および参考にならなかったと答えた1名の合計)も3名あった。これらの学生は、現在の自分と現場の管理栄養士との間に、専門知識やコミュニケーションスキルについて学生本人の想像以上に差があることを感じ、そのような回答をしたことが自由記入欄から示唆された。見学に行った時点においてはこれらの差があつて当然ではあるが、このような学生には、大学内での専門分野の教育による知識の習得や、実習等を活用したコミュニケーション能力の向上などを通して自信をつけさせるフォローが必要であると思われ、今後の学内での教育上の課題となった。

質問3および4は大半が肯定的な回答であった。

3-2. 小テスト結果

見学の成果を計るために栄養管理論(含む栄養アセスメント論)講義中に実施した小テストの解答を、1期生については参加した学生と参加しなかった学生に分けて集計した。参加しなかった学生55名中、2点を獲得した学生は9名(16%)、1点は8名(15%)、0点(解答なし)は38名(69%)で、半数以上の学生は解答できなかった。2期生においては2点は45名(58%)、1点は28名(36%)、0点は4名(5%)と大半の学生は何らかの解答をし、その中でも半数以上が体格測定と栄養アセスメントを具体的に関連付けて解答することができていた。1期生のうち参加した学生はわずか7名であったため参考値として示すが、2点は4名、2点は2名、0点は1名でほぼ全員が参加した2期生と同様の傾向を示した。アーリーエクスポージャーに参加した2期生において、参加しなかった1期生と比べて得点が高かった(マン・ホイットニー検定、 $p<0.001$) (図4)。1期生と2期生との間に明らかな学業成績上の差異は見られなかったことから、解答率や内容の差は学年間での知的能力の差ではないと考えられる。これらの結果から、従来は机上で学んだ後に見学や実習を行うことで学習の定着が図れるとされてきたが、今回はそれとは逆に、事前に関連分野について見学を行うことでその後受講する講義内容に興味を持つことができ、その結果理解が進んだことが示唆された。

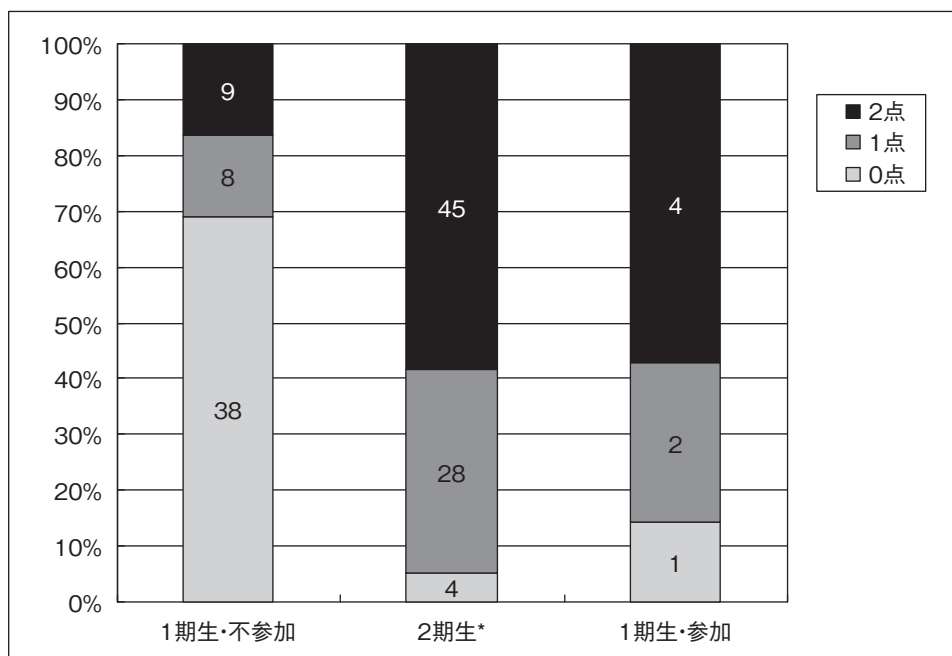


図4 学習効果測定結果。カラム内の数字は実数を示す。1期生・参加は参考値として掲載した。* $P>0.001$ (マン・ホイットニー検定。1期生・不参加に対して)

4. 結語

今回実施したアーリーエクスポージャーとしての乳幼児健診の見学には、本学学生に対して職業観の構築、学習意欲の増進といった効果があることが示唆された。

謝辞

アーリーエクスポージャーを実施するに当たり、多大なるご協力、ご指導をいただいた長野県東筑摩郡山形村保健福祉課の平沢隆一課長、松本協立病院の矢崎棗医師、その他現場スタッフに深謝する。

参考文献

- 1) Toshiro Shimura, Akinobu Yoshimura, Takuya Saito and Ryoko Aso J Nippon Med Sch., 75, 196—201 (2008)
- 2) 齋藤高広、高橋和裕、釜田朗、島村和宏、田代俊男、清野晃孝、鎌田政善、天野義和：奥羽大学歯学誌、34, 9-189 (2007)
- 3) 高柳理早、山田安彦、大関健志、横山晴子、平塚明、大野尚仁、笹津備規：薬学雑誌、126, 1179-83 (2006)
- 4) 田中明：栄養学雑誌 Supplement to Vol.67, 65 (2009)
- 5) 藤岡由美子、沖嶋直子、水野尚子：栄養学雑誌 Supplement to Vol.66, 250 (2008)
- 6) 沖嶋直子、藤岡由美子、水野尚子：第63回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集、186 (2009)
- 7) 会田さゆり、山本直子：函館短期大学紀要、33, 7-16 (2007)
- 8) Yahooきっず 将来のお仕事：http://contents.kids.yahoo.co.jp/job/job_name/099/index.html
- 9) ナニなる.ネット：<http://naninaru.net/job.php?bno=50>
- 10) リクルート株式会社：仕事と資格ネット：http://www.shikakutoshigoto.net/job-search-list_CCJ030083_